

Back Number

本論文は

# 世界経済評論 2021年9/10月号

(2021年9月発行)

掲載の記事です



世界経済評論

## 定期購読のご案内

年間購読料

1,320円×6冊=7,920円

6,600円

税込

17%

送料無料

OFF

富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

定期購読  
期間中

デジタル版バックナンバー読み放題!!



世界経済評論 定期購読



☎0120-223-223

[24時間・年中無休]

お支払い方法

Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。  
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp

雑誌のオンライン販売

## 分水嶺にたつ市場と社会 ：人間・市場・国家が織りなす 社会の変容

横浜国立大学名誉教授

上川 孝夫



[編著者]

斎藤 修 (さいとう おさむ)

一橋大学 (経済研究所) 名誉教授

古川純子 (ふるかわ じゅんこ)

聖心女子大学教授

[発行] 文眞堂, 2020年12月

[判型] 四六判, 254ページ

[定価] 本体 1800円+税

世界の潮目が変わりつつある今、市場や社会の行く末を考えるための優れた書が出版された。国家、貨幣、テクノロジー、労働市場、グローバリゼーション、世界政治といった重要テーマについて、国際経済学、比較経済体制論、経済思想、経済史、グローバル政治経済学、世界政治学をそれぞれ専門とする研究者6名が健筆を振っている。

本書は、現代の市場やその歴史に問題関心を持つ研究者によって進められてきた研究会活動の貴重な成果である。「はしがき」によれば、歴史の重層性を捉える「長期を見通す目」と、

既成概念の一步外から鳥瞰する「構図を見渡す目」の二つが重視されている。新たな時代に新たな知の構築を模索せんとする本書の姿勢は高く評価されよう。

本書の各章は大きく三つに分けられるように思われる。一つは西欧近代文明の普遍性の問い直しと、変貌著しい現代貨幣の歴史的検討である(第1章、第2章)。二つ目は新たな技術革新が市場や社会、労働に与えるインパクトの分析であり、歴史、現状、将来予想にわたる(第3章、第4章)。そして三つ目は社会の分断・格差、グローバリゼーションの動揺、覇権争いと続くアメリカと世界の診断や行方に関する論稿である(第5章、第6章)。

各論稿はいずれも示唆に富む。たとえば、AI化の進展度と雇用状態の関係について、思考実験が行われている。賃金の伸縮性と固着性の歩みを、近代以前から現代まで通観しているのも興味深い。さらに、アメリカの建国以来存在する分断状況が1980年代以降の新自由主義によって増幅され、トランプ政策がそれを拡大したという指摘も注目される。このほか、アセモグルとロビンソンの経済発展理論、20世紀前半のドイツ語圏の経済思想、余暇に関するケインズの予言、後期ヒックスの市場論、中世以降の旧秩序の転換事例など、多彩に議論が組み込まれている。

本書には全体を締めくくる終章がある。人類史を理解するには、市場経済だけでなく、共同体や国家、市場以外の領域の役割が欠かせないと指摘して、資本主義を単なる市場システムとみなすことを戒めている。パンデミックに揺れる社会はそのことをよく物語るものだろう。本書にも登場するボラニーは主著『大転換』で19世紀文明の興隆と崩壊を描いたが、21世紀の現在を過去と比較することも興味深いテーマである。今なお状況は不透明であるが、この先待ち受ける近未来を考えるうえでも、本書で行われている議論は有益である。

(かみかわ たかお)